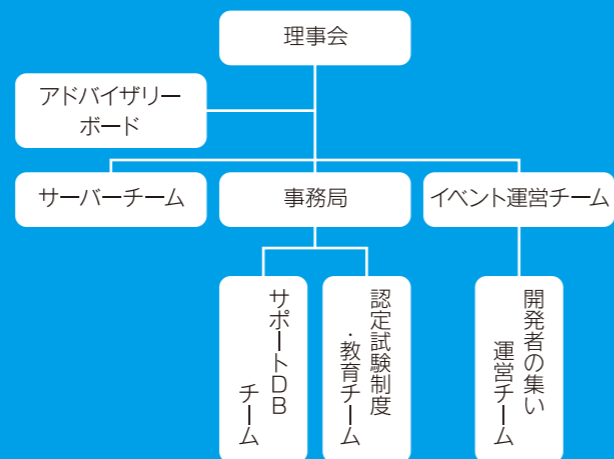


## Seasarファウンデーションの体制

OSS開発と配布を活動内容としてきた任意組織「Seasarプロジェクト」が特定非営利活動促進法に基づいた法人「Seasarファウンデーション」の設立を内閣総理大臣へ2005年8月に申請し、2005年12年に認証されました。

皆様のおかげで、認証から3年以上の月日が経ち、組織も大きくなりました。誠にありがとうございます。

代表理事：橋本 正徳(株式会社ヌーラボ)  
理事：渥美 俊英(株式会社電通国際情報サービス)  
理事：栗原 傑亨(株式会社グルージェント/サイオステクノロジー株式会社)  
理事：千葉 滋(東京工業大学 教授)  
理事：米林 正明(株式会社Abby)  
理事：古川 正寿(株式会社フルネス)  
理事：丸山 不二夫(早稲田大学 客員教授)  
監事：宮原 徹(株式会社びぎねっと)  
事務局：杉山 隆志(株式会社フライトシステムコンサルティング)  
事務局：松前 宣博(株式会社フライトシステムコンサルティング)  
アドバイザリーボード：喜多 伸夫(サイオステクノロジー株式会社)  
アドバイザリーボード：中山 義人(株式会社NTTデータ イントラマート)



# Seasar Foundation

特定非営利活動法人Seasarファウンデーションのご案内

## 本年度のイベント

6/13 Seasar Conference 2009 Spring

9/12 Seasar Conference 2009 Autumn

## 寄付のお願い

Seasarファウンデーションでは、オープンソース・ソフトウェアの開発や、保守・メンテナンスを支援するための基金として、企業様からの寄付などにより「Seasar基金」の設立を進めております。

「Seasar基金」では、まず始めに、国内で多く利用されているSeasar2のマニュアルや、ガイドブックなどのドキュメントの整備や、無償コースウェアの提供、テクニカルサポート、認定制度などに着手いたします。

また今後も、年に2～3回のカンファレンスや、サーバの維持メンテナンスを継続的にまいります。現在稼働している情報システムで使用されているSeasar2の保守・メンテナンスや、これから開発される情報システムで使用されるであろうSeasar2

の開発支援を行い、さらに、OSS開発者やコミュニティをエンカレッジし、皆様安心してSeasar2をご利用できるように努力いたします。この活動に、興味を持たれた方や、支援を頂ける企業様は、是非、「Seasar基金」にご協力ください。

### 寄付についてのお問い合わせ

東京都港区虎ノ門4-1-28虎ノ門タワーズ11F  
株式会社グルージェント内

電話：03-6402-4650(10時～19時、土日祝日休み)  
ファクス：03-6402-4651  
メール：inquiry@seasarfoundation.org

# ごあいさつ

Seasar ファウンデーション 代表理事  
橋本正徳

「The Seasar Project」が誕生したのが、2004年。それから、5年が経過して、2009年6月現在、175名のコミッターを抱える大きなオープンソース・ソフトウェア開発者コミュニティとなりました。

技術の発達はや早いもので、メインプロダクトである「Seasar2 (S2Container)」が、実現している「DIコンテナ」という仕組みも、登場したときは「新しい技術」として、注目されていたのですが、現在では、多くの方々に利用され、「枯れた技術」と呼ばれるようになっていきます。

また、国内のオープンソース・ソフトウェア(以下OSS)のメリットも、広く理解されるようになり、例にとると、(少し古い話ですが)2007年のIPAの地方自治体に置くOSSへの期待調査では、「業務分類やシステム階層分類などに応じてOSSを採用していくべき」という意見が85%を超えを積極的に採用したいという結果がでています。これからも、国内の情報システムを支えるテクノロジーとして、OSSは多くの技術者に使われて、生活の基盤として利用される情報システムの、縁の下の力持ちとして存在し続けるのでしょう。

しかしながら、そのほとんどは、海外で作られたOSSに頼っているように思えます。その仮説が正しければ、国内の情報システムのほとんどの部分が、海外製品で構築されていることになり、日本はさながら、ソフトウェア輸入大国のようになっていることでしょう。

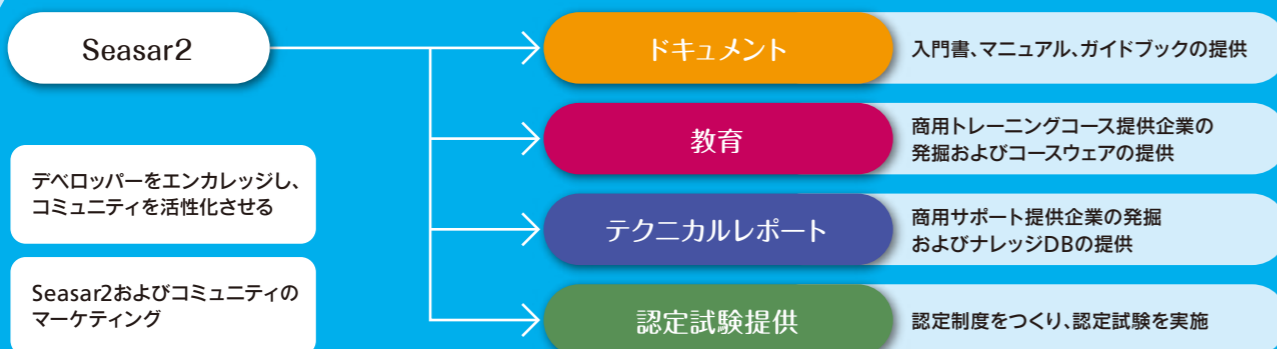
Seasarファウンデーションは、その状況を踏まえて、国内で開発されたOSSの知的財産権を継続的かつ、透明性高く運用管理し、国内はもとより、世界中に影響力を発揮させることに挑戦いたします。そのために、OSS開発者の連携感を

醸成し、勇気づけ、コミュニティを活性化させます。また、コミュニティとして、良い成果がでましたら、Seasarファウンデーションにみならず、活動の成果を他コミュニティへもお伝えし、日本のIT業界全体の底上げの実現を目指します。小さなことの積み重ねになると思いますが、幸いにして、皆様のご協力を頂いていることを、私たちの励みとして、活動いたします。また、これからも皆様のご支援を宜しくお願いいたします。



# Seasarファウンデーションは、さらに大きく成長します!

## Seasar2発展のための支援活動



## Seasar2の製品をメンテナンス・サポート

以前、カンファレンスでアンケートを実施したところ、新しいプロダクトのアイデアなどに混じって、Seasar2(もしくは周辺プロダクト)の継続的なメンテナンス・サポートを必要とする声を多く頂きました。

しかし、OSS開発者の多くは、営業時間は通常業務をし、夜や、土日のプライベートな時間でOSSを開発しているのが、現状ですので、コミュニティのみの方で、メンテナンス・サポートを計測していくのは、なかなか難しいことですし、優れたOSS開発者には、新しいOSSプロダクトを生み出していただくことを期待してしまいます。

そこで、Seasarファウンデーションでは、今までの通り、新しいOSSプロダクトを生むコミュニティをサポートすると同時に、「Seasar基金」で実施する事業として、まず「ドキュメント」「教育」「テクニカルサポート」「認定試験制度」の4事業に着手します。例えば、「教育」であれば教材はオー

ブンコースウェアとして、企業様がダウンロードして、有償のセミナーを実施できる資料を無償で公開します。

また、「テクニカルサポート」は、Seasar関連プロダクトの利用者からの質問窓口である「メーリングリスト」の今までのログを分析、整理し、「ナレッジデータベース」の構築に着手しています。最初の段階では入門者向けのFAQにまとめ、コースウェアでのセミナーをもとに、Seasar2を導入した方々や、その他切っ掛けで、Seasar2(もしくは周辺プロダクト)を導入された方々のサポートができるような仕組みになることを前程としています。

この取り組みをさらに発展させ、「ドキュメント」や「認定試験制度」も同様に着手し、各事業の相乗効果を図り、Seasar2の製品を使っている皆様の期待に応えることが出来るよう検討をしています。

## OSSビジネス発展のための支援活動

Seasarファウンデーションでは、オープンソース・ソフトウェアの開発を支援するための基金として、企業からの寄付などによりSeasar基金の設立を進めています。SeasarファウンデーションはSeasar基金の事業によりエンタープライズ・ユーザーの要望に応えることでSeasar関連ビジネスを創出・拡大しエコシステムを活性化させていきます。そのことによりSeasar基金への新たな出資者が現れ、Seasarプロダクトの

安定性の向上のために基金を活用します。また、この活動に理解を示していただき、行動していただくことで、さらにオープンソース技術者や地方のIT技術者の雇用の拡大を期待します。そのように、Seasarプロジェクトのコミッターが増加し、オープンソース・コミュニティが拡大するという好循環を作りたいと考えております。

